

科目名	看護理論			選択必修	選択
担当教員	村瀬智子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	開講日 12:30～13:00
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1. 看護学・看護科学における看護理論の意義を説明できる。 2. 看護実践と看護理論の関連について説明できる。 3. 看護理論の評価および今後の課題について述べるができる。					
■ 授業の概要 実践科学である看護学・看護科学の変遷を概観し、看護理論の役割・意義、および今後の課題を探究する。また、世界の動きに注目し、西洋と東洋を超えて統合された看護理論と実践に適用可能な中範囲理論を追究する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	看護学・看護科学(オリエンテーションを含む)				村瀬
2	看護理論の概観(日本における看護理論の概観を含む)				村瀬
3	理論の構成要素と理論評価				村瀬
4	看護実践課題と看護理論				村瀬
5	看護実践課題と看護理論				村瀬
6	看護実践課題と看護理論				村瀬
7	看護理論の研究への活用				村瀬
8	看護理論における今後の課題と展望				村瀬
■ 準備学習 修士課程で学んだ資料などがあれば持参して下さい。					
■ 教材・テキスト 筒井真優美編集(2020). 看護理論家の業績と理論評価 第2版. 医学書院					
■ 参考書 ★Allgood, M. R. (2017). Nursing theorists and their work (9th ed.). St. Louis, MI: Elsevier. Chinn, P. L., & Kramer, M. K. (1995)/白石聡監訳(1997). 看護理論とは何か. 医学書院. Chinn, P. L. & Kramer, M. K. (2004)/川原由佳里監訳(2007). チン&クレイマー 看護学の総合的な知の構築に向けて. エルゼア・ジャパン. ★Chinn, P. L. & Kramer, M. K. (2018). Knowledge development in nursing: Theory and process (10th ed.). St. Louis, MO: Mosby, Inc. Fawcett, J. (1993). Analysis and evaluation of nursing theories. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. Fawcett, J. (1995). Analysis and evaluation of conceptual models of nursing. Philadelphia, PA: F. A. Davis Company. ★Fawcett, J. (1993)/太田喜久子・筒井真優美監訳(2008). フォーセット 看護理論の分析と評価. 医学書院. ★Fawcett, J. & DeSanto-Madeya, S. (2013). Contemporary nursing knowledge: Analysis and evaluation of nursing models and theories (3rd ed.). Philadelphia, PA: F. A. Davis Company . George, J. B. (2011)/南裕子・野嶋佐由美・近藤房恵(2013). 看護理論集 第3版. 日本看護協会出版会. ★Meleis, A. I. (2018). Theoretical nursing: Development and progress (6th ed.). Philadelphia, PA: Lippincott Williams & Wilkins. ★村瀬雅俊・村瀬智子(2020). 未来共創の哲学—大統一生命理論に挑む—, 言叢社 ★Tomey, A. M. & Allgood, M. R. (2002)/都留伸子監訳(2004). 看護理論家とその業績 第3版. 医学書院. 筒井真優美編著(2015). 看護理論—看護理論20の理解と実践への応用 第2版. 南江堂 Walker, L. O., & Avant, K. C. (2018). Strategies for theory construction in nursing (6th ed). Norwalk, CT: Prentice Hall. Walker, L. O., & Avant, K. C. (2005)/中木高夫・川崎修一(2008). 看護における理論構築の方法. 医学書院.					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業への取り組み 50% 課題に関するプレゼンテーション 50% 計100%					
■ 教員からのメッセージ 看護理論は、膨大な一般理論の知識を基盤として構成されています。看護理論を理解するためには、これらの一般理論も含めて学ぶことが必要です。学生間のプレゼンテーションや討議を通して、看護理論を事例に適用することで開ける新たな看護の世界を体験できればと思います。メールアドレスは、tmurase@rctoyota.ac.jpです。					

科目名	赤十字人道援助論			選択必修	選択
担当教員	井上忠男				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	授業終了後およびメール(随時)にて受け付けます
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 赤十字の起源と歴史、基本原則、国際人道法、活動について国際社会における赤十字運動の意義と役割の視点から学ぶ。また人間の安全保障の視点からのMDGsからSDGsの取り組み、国際人道援助の歴史と仕組み、行動規範、諸課題等について理解を深める。					
■ 授業の概要 上記目的に沿って、主要国際機関の動向や赤十字機関が国内外で実施する人道援助の現状を歴史的な視点と具体的な活動事例も交えてながら学ぶ。主な項目は以下のとおりである。 ①国際人道支援の原則のなりたちと赤十字の基本原則の果たした役割、 ②人間の安全保障とMDGsからSDGsの取り組み ③武力紛争時に適用されるジュネーブ条約を中心とした国際人道法の体系 ④国際的人道援の標準化と最低基準(スフィア・プロジェクト)、その他の行動規範 ⑤緊急救援と開発協力の実際					
回	授業内容及び方法				担当
1	オリエンテーション、赤十字の起源と歴史: 思想と組織、特色				井上
2	赤十字の基本原則と国際社会への影響				井上
3	赤十字の人道援助: 緊急救援と開発協力のメカニズムと特色				井上
4	人道支援の国際規範: Code of Conduct、スフィア基準、オスロガイドラインなど				井上
5	国際社会の諸問題①: 21世紀のグローバル課題と人間の安全保障				井上
6	国際社会の諸問題②: 国際社会の取り組みとMDGs、SDGs				井上
7	紛争多発と複合危機: 国際人道法の意義と赤十字標章の適正使用				井上
8	グローバル世界の構造: 普遍的価値と「人道」の実現に向けて				井上
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 授業終了時に示す内容について、復習しておくこと。					
■ 教材・テキスト 「解説 赤十字の基本原則」(J/ピクテ) 「スフィア・プロジェクト」(2011版) 「世界災害報告」 その他随時指定する。					
■ 参考書 国際人道研究ジャーナル各号、日本赤十字社、ICRC、IFRCなどのHP					
■ 成績評価の方法及び採点基準 課題レポートによる。討論への参加状況、事前課題の準備状況など総合的に評価。					
■ 教員からのメッセージ 赤十字の特色と国際人道支援における先駆的活動の歴史を概観するとともに、現代世界における人道支援の実際と支援が抱える課題や国際標準化、規範化の流れへ理解を深める。また現代世界が抱える諸問題を特にMDGs、SGDsの視点から理解を深め、世界が抱える問題の背景についても洞察を深める。 オフィスアワー: 事前にメールにて時間予約をしてください。					

科目名	科学的研究方法論 I (実験研究)			選択必修	選択
担当教員	根本 昌宏、村林 宏、姫野 稔子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	根本: 17:00-18:00(水) 村林: 17:00-18:00(月) 姫野: 16:00-18:00(月)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 設定した研究テーマに対して科学的根拠を明らかにするために有効な実験デザインと準実験デザインによる研究計画と各種測定手法を理解し、実践することができる。					
■ 授業の概要 実験研究に不可欠となる動物およびヒトの生体で起こる現象を科学的に立証するための研究方法、生体反応など様々なバイオマーカーを利用した実験研究及び準実験研究の方法について教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	1. 実験研究を行うにあたって 2. 実験研究と倫理 3. 実験動物とその取扱い 4. 非臨床試験の概要とGLP				根本
2	1. 薬の効果と有害作用の評価 2. 実験動物代替法 3. バイオマーカーと疾患				根本
3	1. 酵素免疫測定法の基礎 2. 酵素免疫測定法を用いたストレス評価 3. 生体反応・環境因子の評価手法				根本
4	1. 実験動物試料の扱い方 2. 組織試料作成方法 3. 組織染色の基礎 4. 抗原抗体反応の基礎				村林
5	1. 免疫組織化学法の手技 2. 実験結果の判定 3. 免疫組織化学法の応用 4. 画像作成時の注意				村林
6	1. フィールドワークの基礎 2. 野生生物調査方法 3. 統計技法について				村林
7	1. 準実験研究デザインとは 2. 準実験研究の内容妥当性の考え方 3. 内容妥当性を高める方法				姫野
8	1. ヒトを対象とした準実験研究の具体的なプロセス-計画立案から分析まで-				姫野
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。講義後にレポート課題に取り組むこと。					
■ 教材・テキスト 指定しない。					
■ 参考書 必要に応じて提示する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 講義終了時に、各講師が課題を提示するので期限までに提出すること。 各教員の担当時間数に応じて配点し、合計100点である。					
■ 教員からのメッセージ 客観的評価法として重要な実験研究の内容ならびに技術を理解して、自らが計画、実行、評価、改善できるように学んで下さい。 人間を対象とした研究成果によって看護学を発展させていきましょう。(姫野)					

科目名	科学的研究方法論Ⅱ(臨床介入研究)			選択必修	選択
担当教員	伊藤善也、西片久美子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	伊藤:12:00-13:00(火・水) 西片:18:00-19:00(月)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 1. 臨床介入研究に関する論文を批判的に読解するための基礎的な力を養う。 2. 臨床上的の問題を臨床介入研究により解決するための方法論を学ぶ。					
■ 授業の概要 臨床現場で介入による治療・ケアの効果を得るために臨床介入研究を計画し、遂行するプロセスについて教授する。介入のための方法論や結果分析法などについて実践的に教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	概論1:臨床研究のなかに位置づけられる臨床介入試験の概要を理解する。				伊藤
2	概論2:実施にあたって基礎となる研究倫理や生物統計学について学ぶ。				伊藤
3	臨床介入試験の設計1:薬剤の臨床介入試験結果を読み解くための基礎知識(優越性、非劣性)について学ぶ。				伊藤
4	臨床介入試験の設計2:臨床介入試験の設計に必要な基礎知識(PICO、エンドポイントと例数設計)について学ぶ。				伊藤
5	臨床介入試験の実施:臨床介入試験を実施するための基礎知識(ランダム化、割り付け、盲検化、中間解析)について学ぶ。				伊藤
6	臨床介入試験の評価:実施した臨床介入試験の結果をまとめ、他の臨床試験と比較する方法論(システマティックレビュー、メタアナリシス)について学ぶ。				伊藤
7	看護分野で実施された臨床介入研究を取り上げ、対象者の割付やプロトコルの作成を中心に学ぶ。				西片
8	提示された論文を読み看護における臨床介入研究のプロセスを学ぶとともに、限界や課題について検討する。				西片
■ 準備学習 講義の1週間前に授業内容の理解を進めるための資料を提示するので、講義を受けるまでに学習してください。					
■ 教材・テキスト 指定しない。					
■ 参考書 必要に応じて提示する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 講義終了時に各講師より提示されたテーマでレポートを作成する。配点は伊藤担当分:75点、西片担当分:25点で、合計100点である。					
■ 教員からのメッセージ 看護師として臨床介入研究を立案・設計・実施できるような知識を身につけ、実践できるように取り組んでください。					

科目名	科学的研究方法論Ⅲ(尺度開発)			選択必修	選択
担当教員	河口 てる子、西片 久美子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	河口:土 16~18時 西片:月 17~18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 看護学における現象を探究するために、測定したい現象を概念化し、その概念を尺度化する尺度開発のプロセスと方法を教授する。さらに、看護学の基盤を発展させるための尺度の活用方法について教授する。					
■ 授業の概要 講義内容をもとに尺度開発に関する文献検討により深めた内容のプレゼンテーションとディスカッションを中心に行う。					
回	授業内容及び方法				担当
1	測定したい現象を尺度化する尺度開発プロセスの概要 現象の概念化、概念定義、アイテムプール、内容妥当性の検討				河口
2	プレテストの実施、イニシャルスケールによる統計的検討(予備調査) 項目分析、因子分析、主成分分析等				河口
3	尺度の信頼性の検討、妥当性の検討				河口
4	尺度の適合度、下位尺度をもつ尺度の構成と得点化 翻訳尺度の作成プロセスおよび妥当性と信頼性の検討				河口
5	尺度開発の実際				西片
6	尺度開発論文のクリティーク				河口・西片
7・8	尺度開発論文のクリティーク				河口・西片
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(プレゼンテーション50%、討議内容50%)で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。					
■ 教員からのメッセージ 担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

科目名	科学的研究方法論Ⅳ(質的研究)			選択必修	選択
担当教員	石崎 智子、山田 典子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	石崎:17:00-18:00(火) 山田:16:00-18:00(月)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		

■ 授業の目的

- 1)看護研究における現象学的研究の意義と目的について理解できる。
- 2)現象学的研究におけるプロセスを理解し、看護研究への活用を思索できる。
- 3)看護研究におけるKJ法の活用の意義について理解できる。
- 4)KJ法におけるデータ分析の手法を体験し、質的統合法の方法論としての特徴を理解できる。

■ 授業の概要

看護学における事象を帰納的な観点から探究するために必要な統合力を培い、学際的な研究手法を活用することの意味を理解し、KJ法および現象学的研究プロセスを展開できるよう教授する。

回	授業内容及び方法	担当
1	看護研究と現象学	石崎
2	現象学的研究における「研究者」と「事象」	石崎
3	現象学的研究におけるデータ収集の方法	石崎
4	現象学的研究におけるデータ分析の手法	石崎
5	看護研究とKJ法	山田
6	質的統合法(KJ法)におけるデータ分析(1)ーデータの単位化、グループ編成ー	山田
7	質的統合法(KJ法)におけるデータ分析(2)ー図解と叙述化ー	山田
8	質的統合法(KJ法)の活用と発展	山田

■ 準備学習

現象学的研究については、『現象学的看護研究ー理論と分析の実際』と『ケアの本質』を読んでください。KJ法について、参考書「発想法」等を読んだことのない人は初回までに読んでください。
講義では模擬データで分析を一部実施します。

■ 教材・テキスト

- ・松葉祥一、西村ユミ編集:現象学的看護研究ー理論と分析の実際. 医学書院, 2014.
- ・ミルトン・メイヤロフ(田村・向野訳):ケアの本質ー生きることの意味, ゆみる出版.

■ 参考書

- ・ホロウェイ、ウィーラー(野口美和子監訳):ナースのための質的研究入門. 医学書院, 2010.
- ・山浦晴男:質的統合法入門 考え方と手順. 医学書院, 2012.
- ・川喜田二郎:発想法. 中公新書, 1996.
- ・川喜田二郎:続・発想法ーKJ法の展開と応用. 中公新書, 1970.
- ・その他、適宜講義の内容毎に文献を紹介する。

■ 成績評価の方法及び採点基準

現象学的研究に関する課題レポートおよびプレゼンテーション(50%)(課題に対して探究した内容のプレゼンテーション、および形式を踏まえ適切に論述されたレポート等の完成度で評価する。)
質的統合法(KJ法)に関する課題レポート(50%)(課題に対して探究した内容のプレゼンテーション、および形式を踏まえ適切に論述されたレポート等の完成度で評価する。)

■ 教員からのメッセージ

KJ法は「渾沌をして語らしめる」もの(山田)。
現象学的研究は、長い歴史をもつ哲学を起源にしているため、難しいと受け止められがちであるが、看護者自身の経験や現に存在している世界を解釈し、了解するために有意義な方法であると考えている(石崎)。

科目名	科学的研究方法論Ⅵ(理論構築)			選択必修	選択
担当教員	河口てる子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	土曜日 16～18時
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 看護学と看護実践に有用な理論を構築するため、演繹的アプローチと帰納的アプローチを用いた理論構築方法、および理論の実践場面における活用方法について教授する。					
■ 授業の概要 看護実践モデルを構築するまでのプロセスと慢性疾患看護の実践場面における活用方法について、具体例を用いながら教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	看護における理論構築の方法(理論開発の背景、レベル、要素、アプローチ、方法)				河口
2	概念統合・立言統合・理論統合の方法				河口
3	概念導出・立言導出・理論導出の方法				河口
4	概念分析・立言分析・理論分析の方法				河口
5	理論の検証、理論開発の具体例、活用例				河口
6	概念分析、理論分析の実際(1)				河口
7	概念分析、理論分析の実際(2)				河口
8	概念分析、理論分析の実際(3)				河口
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト Walker, L.O. & Avant, K.V./中木高夫、川崎修一訳: Strategies for Theory Construction in Nursing/看護における理論構築の方法.医学書院, 2008.					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(プレゼンテーション50%、討議内容50%)で総合的に評価する。 ①課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。 ②自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。					
■ 教員からのメッセージ 主体的な取り組みを期待する。					

科目名	臨床倫理論			選択必修	選択
担当教員	柳井 圭子、石崎 智子				
科目区分	共通科目	単位数	1 単位	オフィス アワー	柳井:12:30-13:20(木) 石崎:17:00-18:00(火)
開講時期	1・2年次 後期	時間数	15 時間		
■ 授業の目的 臨床倫理に関する基礎理論から実践的アプローチを修得し、教育的・指導的立場に立って後進の育成および臨床倫理委員会において中心的な役割を果たせるよう倫理的課題を探究する。					
■ 授業の概要 臨床現場で遭遇する倫理的諸課題に対して、社会的ニーズの多様化に即した適切な対処ができるよう、臨床倫理および医療マネジメントの基本原則と重要概念を教授する。看護学の領域において、今後の医療における倫理的役割の重要性と必要性を理解し、医療倫理と医療マネジメントを応用実践できるように教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	臨床倫理に関する基礎理論から倫理的意思決定モデルを検討する				柳井
2	法制度状況から生じる倫理的課題を国内外の文献をとおして検討する				柳井
3	法的問題とその解決策から、臨床の倫理的諸問題を考察する				柳井
4	倫理コンサルテーションとしての看護師の役割を考察する				柳井
5	事例で考える臨床現場の倫理的課題1:医療・福祉施設で遭遇すること				石崎
6	事例で考える臨床現場の倫理的課題2:地域・社会のなかで看護師としてかかわること				石崎
7	事例で考える臨床現場の倫理的課題3:生命の始期と終期に関すること				石崎
8	「いのちの倫理的受託者」としての看護師の役割を見いだす				石崎
■ 準備学習 教員より提示される課題を文献リスト等を参考に準備の上、参加ください。プレゼンテーションを担当する場合には、教員および参加者に資料また必読文献を事前配付をし、活発かつ実のある討議ができるよう配慮ください。					
■ 教材・テキスト 指定はしません。受講者には授業開始前に参考文献リストを配付します。					
■ 参考書 <ul style="list-style-type: none"> ・宮坂道夫:医療倫理学の方法—原則・手順・ナラティブ(第3版)。医学書院, 2016. ・浅井篤:臨床倫理—基礎と実践,シリーズ生命倫理学 第13巻 臨床倫理、丸善出版,2012. ・石垣靖子、清水哲郎:臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2012. ・Herman Wheeler, Law, Ethics and Professional Issues for Nursing, Routledge, USA,2012. ・その他、講義の内容毎に文献を紹介する。 					
■ 成績評価の方法及び採点基準 ①授業への参加度・プレゼンテーション(50%) 討論への参加状況、プレゼンテーション内容を評価します。 ②課題レポート(50%) 課題に対して探究した内容であり、形式を踏まえ適切に論述されているか等、レポートとしての完成度を評価します。					
■ 教員からのメッセージ 本講は、臨床倫理で問題となる具体的な事例について、互いに意見交換や討論を行い、価値観が異なる他者の意見を大切にしながら自らの意見や考えを広げ多角的な思考を養う場です。臨床は、さまざまな倫理的問題が日常的に発生しています。その経験を活かし対象者の人権や倫理的配慮の大切さを真剣に考えアドボケートする、そのための知的基盤を手に入れましょう(柳井)。 「倫理」は身近なことであり、臨床における看護職の専門性と倫理的役割が連関していることへの理解を通して、看護の奥深さと楽しさを、一緒に実感していきましょう(石崎)。					

科目名	看護人材開発特論			選択必修	選択
担当教員	山田聡子、本田 多美枝、柳井 圭子、松浦正子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	本田:12:10-13:00(金) 柳井:12:10-13:00(水) 山田:17:00-18:00(水) 松浦:17:00-18:00(水)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		

■ 授業の目的

1. 看護人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について理解し、実践への応用について考察する
2. 看護の質を高めるための継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論について考察する
3. 看護・看護教育に関わる政策的課題を明確化し、政策立案を通じて質の高い看護を組織的に行うための方策について考察する

■ 授業の概要

看護専門職実践の特徴を踏まえた人材開発を行うための看護教育や管理の諸理論について学ぶ。さらに、看護の質を高め、継続教育を開発し、組織を統括できる人材育成を基軸に、看護教育プログラムやシステム開発を行うための方法論を探究し、課題を発見し、新しい知を構築する能力を修得する。

回	授業内容及び方法	担当
1	人材開発の考え方、看護基礎教育の現状	山田
2	看護基礎教育の教育課程・方法・評価に関する現状と課題	山田
3	臨地における指導者育成の現状と課題(実習指導者・教員)	山田
4	臨地における指導者育成に関する研究成果の検討	山田
5	臨地における指導者育成プログラムの検討	山田
6	看護継続教育の現状と課題	本田
7	継続教育システム構築の基礎となる諸理論(組織学習理論等)と実践への応用	本田
8	エキスパートナース育成に関する諸理論(省察的実践、熟達化)と実践への応用	本田
9	エキスパートナース育成に関する研究成果の検討	本田
10	病院組織における人材開発の現状と課題	松浦
11	病院組織における人材開発プログラムの検討	松浦
12	日本の医療制度改革と看護の政策的課題の検討	柳井
13	医療・保健領域の政策決定過程の現状と課題	柳井
14	他国における看護教育制度の検討	柳井
15	看護人材育成の政策的課題の検討	柳井

■ 準備学習

各教員から提示される文献リスト等を参考に、事前学習を行い、授業に参加する。大学院生がプレゼンテーションを行う際には、必読文献やプレゼンテーション資料を事前にメール等にて配布し、各自が主体的に参加できるように準備する。

■ 教材・テキスト

テキストは指定しない。最新の参考文献を授業開始時に紹介する。

■ 参考書

最新の文献を含め、適宜紹介する

■ 成績評価の方法及び採点基準

授業への参加度・プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)から総合的に評価する。

- ① 討論への参加状況やプレゼンテーション内容から評価する
- ② 課題に対して探究した内容が適切にレポートとして論述されているか

■ 教員からのメッセージ

授業では、①諸理論と実践への応用、②研究の動向、③プログラム開発・システム開発・政策提言に向けた検討を行います。各自がクリエイティブに考え、現状と課題を踏まえ、新たな観点から看護人材開発のあり方について探究していくことを期待しています。

科目名	療養生活看護学特論A			選択必修	選択
担当教員	河口 てる子、西片 久美子、石崎 智子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	河口:水 16～18時 石崎:火 17～18時 西片:月 17～18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 1) 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探究する。 2) 認知症をもちながら療養生活を営む人々とその家族への看護実践について探究する。 3) 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探究する。					
■ 授業の概要 健康課題をもつ人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な知識、技術および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1～2	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および患者教育に関する概念/理論の探究・分析				河口
3～4	健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および患者教育に関する研究のクリティーク				河口
5	療養生活を営む人々とその家族への看護実践および患者教育に関する課題の明確化				河口
6	認知症の病態と治療				西片
7	認知症高齢者の理解とケアの原則				西片
8	M. ニューマンの理論に基づく認知症患者の理解とケア				西片
9	認知症をもちながら療養生活を営む人々とその家族への看護実践に関する研究のクリティーク				西片
10	認知症をもつ人々とその家族への看護実践に関する課題の明確化				西片
11	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する概念の探究・分析				石崎
12～13	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する研究のクリティーク				石崎
14～15	健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方に関する課題の明確化				石崎
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。 その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(討議・発表等:50%、レポート50%)で総合的に評価する。 ①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。 ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

科目名	療養生活看護学特論B			選択必修	選択
担当教員	山田典子、高田由美、高橋清美、姫野稔子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位		
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間	オフィス アワー	山田 月 16～18時 高田 火 17～19時 高橋 月 17～18時 姫野 月 16～18時
■ 授業の目的 1) 健康課題をもち療養生活を営む人々とその家族への看護実践および健康課題をもち生活を営む人々への患者教育について探求する。 2) 健康課題をもち療養生活を営む人々の健康の捉え方に関する諸理論や研究成果を概観し、健康の捉え方を活用した看護実践について探求する。 3) 健康課題をもち療養生活を送る人々やその支援者のメンタルヘルスの維持・促進の支援、精神障がい者の退院支援の在り方について探求する。					
■ 授業の概要 健康課題をもつ人々に対して、質の高い生活を支援するための療養生活看護に求められる専門的な技術、援助および教育方法などを探求する。この探究を通して、専門領域における看護学の構築に向けて教授する。					
回	授業内容及び方法				担当
1～2	健康課題をもち療養生活を送る人々やその家族のメンタルヘルスの維持・促進の支援、患者教育に関する研究のクリティーク				山田
3～4	健康課題をもち療養生活を営む人々の心の健康に関する捉え方および諸理論や研究成果を概観、健康課題の明確化				山田
5～6	健康課題をもち療養生活を送る人々とその家族への看護実践に関するクリティーク、概念及び理論の探究				高橋
7～8	健康課題をもち療養生活を送る人々とその家族への看護実践に関する課題の明確化、精神障がい者の退院支援のあり方に関する概念の探究/分析				高橋
9～10	健康課題をもち療養生活を送る高齢者とその家族の健康の捉え方および看護実践に関するクリティーク、概念及び理論の探究				姫野
11～12	健康課題をもち療養生活を送る高齢者とその家族への看護実践に関する課題の明確化、倫理的意決定に関する概念の探究/分析				姫野
13～14	健康課題をもち療養生活を送る高齢者への患者教育、家族及び地域との連携に関する研究のクリティーク				高田
15	健康課題をもち療養生活を送る高齢者やその家族のメンタルヘルスの維持・促進の支援に関する看護実践の探求				高田
■ 準備学習 次回の授業範囲について、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。その他、授業終了時に示す課題について、レポートを作成すること。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業参加状況(討議・発表等:50%、レポート50%)で総合的に評価する。 ①自発的な質問等、積極的に講義に参加したか。 ②レポートが課題に対し適切な内容でまとめられているか否か。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

科目名	生涯発達看護学特論			選択必修	選択
担当教員	野口 眞弓、志賀くに子、永松 美雪、大西 文子、志賀加奈子				
分野	専門科目	単位数	2 単位	オフィスアワー	大西:(木)17時~18時 野口:(月)17時~18時 志賀くに子:(水)17時~18時 永松:(木)17時~18時 志賀加奈子:(水)17時~18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		

■ 授業の目的

1. 子育ての中核にある、出生直後からの母子を取り巻く母乳育児のアセスメントの実際と、母乳のケアを通じた乳児の健全な発育を支援する、地域の助産師・看護師の役割と実践について、理解できる。
2. 思春期を取り巻く環境を念頭に、思春期を中心とした健康教育のあり方および方法について理解できる。
3. 思春期から更年期におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関する理論・概念、援助方法を理解できる。
4. 小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と慢性疾患をもつ子どもと家族の支援に関する生涯発達理論・概念、援助方法を理解できる。
5. 国内外における予防接種制度(定期接種)の歴史的変遷を概観し、人の生涯にわたる健康を目指すために、予防接種を受ける子どもと家族の支援について討議する。

■ 授業の概要

生涯発達理論を基盤とし、人間の誕生から更年期までの対象において、それぞれの時期に必要な健康課題を明確にし、各段階に応じた生涯発達支援に向けた専門的な看護援助方法について、国内外の研究の知見を交えて教授する。また、小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と慢性疾患をもつ子どもと家族の支援に関する生涯発達理論・概念を教授する。

回	授業内容及び方法	担当
1	出産体験に影響をする要因および出産体験が及ぼす影響について検討し、出産時の援助方法について討議する。	野口
2	母乳育児を可能にするための援助方法について検討する。	野口
3	妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援 日本版「ネウボラ」構想を実現するための課題や方略について探求する。	野口
4	思春期:中学生・高校生を対象とする健康教育の実際から課題を探究する	志賀
5	性と生殖に関する健康教育について課題をもちより援助方法について討議する	志賀
6	思春期を対象とする健康教育のありかた、また支援方法について討議する	志賀
7	思春期・青年期におけるパートナーとのリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する課題を検討し、理論・概念を活用し援助方法について探究する。	永松
8	成熟期の妊娠に関する倫理的課題を検討し、女性と胎児のアドボカシーの視点を活用し援助方法について探究する。	永松
9	更年期における家族とのリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する課題を検討し、理論・概念を活用し援助方法について探究する。	永松
10	小児期にある子どもの健康障害が成長発達に及ぼす影響と生涯発達支援における課題を検討し、理論・概念を活用した援助方法について探究する。	大西
11	小児期のがんの子どもとその家族とその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、探求する。	大西
12	小児期にてんかんをもつ子どもとその家族とその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、探求する。	大西
13	小児期にネフローゼ症候群をもつ子どもとその家族の生涯発達支援における課題や必要な援助方法について、探求する。	大西
14	国内外における予防接種制度の歴史的変遷を概観し、予防接種を受ける子どもと家族の支援について討議する。	志賀加奈子
15	ワクチン個々の特徴を通して、予防接種を受ける子どもと家族の支援について討議する。	志賀加奈子

■ **準備学習**

事前学習課題を提示いたしますので、科目を選択される学生さんは、授業開始の2週間前までにはご連絡をお願いいたします。

■ **教材・テキスト**

適宜紹介する

■ **参考書**

適宜紹介する

■ **成績評価の方法及び採点基準**

各担当教員からの課題(50%)に加えて、プレゼンテーション評価(20%)やディスカッションへの参加状況(20%)、参加度(10%)を合わせて評価とする。

配点は、野口担当分20点、志賀くに子担当分20点、永松担当分20点、大西担当分27点、志賀加奈子担当分13点の合計100点である。

■ **教員からのメッセージ**

ライフサイクル全体を俯瞰し、看護の対象となる人の生涯発達上の課題を明確にしたうえで、その人なりの健康を維持・増進できるような方略をともに探求していきたいと考えています。主体的な学習を期待します。

科目名	実践看護学特論			選択必修	選択
担当教員	百田武司、鎌倉やよい、小松浩子				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	百田:17:00-19:00(火) 鎌倉:12:00-13:00(月) 小松:12:00-13:00(水)
開講時期	1. 2前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 1) ナーシング・ケア・サイエンスの構築に向けて、行動に介入する技法を理解し、脳卒中急性期の誤嚥性肺炎予防のための看護ケアの開発について探求する。 2) 脳卒中患者に対する、ベストプラクティスを提供するための方法論について探求する。さらに、患者・家族のアウトカムを向上させるための看護ケアの開発について探求する。 3) 最新のがん医療の動向を理解し、患者あるいはサバイバー中心のがん医療の発展に貢献するための看護実践開発について探求する。					
■ 授業の概要 脳卒中やがんなど生活習慣病とともに療養生活を営む人間や健康に対する諸理論や既存の研究成果を概観し、成長発達段階と健康障害のレベルを融合した観点から、その人がより健康に生活していくための健康上の問題や研究課題を探求し発見する能力を修得する。					
回	授業内容及び方法				担当
1	ナーシング・ケア・サイエンスの構築に向けての展望				鎌倉
2	行動への介入研究法:シングルケースデザイン				鎌倉
3	摂食嚥下障害のフィジカルアセスメントと病態推論				鎌倉
4	脳卒中急性期における誤嚥性肺炎予防に関する文献検討①				鎌倉
5	脳卒中急性期における誤嚥性肺炎予防に関する文献検討②				鎌倉
6	脳卒中患者に対する研究における臨床的意義の検討				百田
7	脳卒中患者に対する研究における研究デザイン、対象設定の検討				百田
8	脳卒中患者のアウトカム測定に関する検討				百田
9	脳卒中患者に対する介入研究の展開方法				百田
10	脳卒中患者に対する介入研究の成果の吟味と今後の発展の検討				百田
11	最新のがん医療の動向と課題に関する文献検討				小松
12	がん患者あるいはサバイバーの体験の解明(質的研究)				小松
13	がん患者あるいはサバイバーの健康課題の解明(観察研究)				小松
14	がん患者あるいはサバイバーの健康課題に対する看護実践開発(Mixed Methods)				小松
15	がん患者あるいはサバイバーに対する看護実践開発の展望				小松
■ 準備学習 授業内容や方法について、適切な文献を活用し専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。					
■ 教材・テキスト 特になし					
■ 参考書 各授業の中で適宜紹介する					
■ 成績評価の方法及び採点基準 ①授業への参加度と貢献度(10%)②文献検討に基づきプレゼンテーションの内容(60%) ③レポートの作成(30%)					
■ 教員からのメッセージ 文献検討を深めることで、学生自身の研究課題や研究の方法論を探究していきます。					

科目名	災害救護特論			選択必修	選択
担当教員	中信利恵子、田村由美、渡邊智恵				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	中信:17:00-19:00(火) 田村:16:30-18:00(木) 渡邊:17:00-19:00(火)
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		

■ 授業の目的

国内外の災害の動向と課題を探究し、災害医療や災害看護に関連する諸理論、方法論に関する国内外の文献をレビューするとともに、主要な理論・方法論を検討する。

■ 授業の概要

1) 災害看護領域における現象や看護実践の分析、活用されている諸理論や先行研究の研究成果を概観し、災害サイクルの各期の質の高い看護ケアを行うための看護の課題を探究する。また、災害が被災者や救援者に及ぼす影響、看護実践に活用できる理論や方法論について探究する。さらに、関心のある研究トピックに関する研究の動向や課題を探究し、研究方法論を検討する。
2) 災害時における要配慮者の健康問題とそれに対するケアおよび介入方法について探究し、看護の役割を検討する。
3) 災害急性期および復興期のケアに関する諸概念や方法論に関する文献を概観・分析し、質の高い看護を検討する。また、災害時における課題解決に向けた多機関連携、多職種連携について探究し、研究方法論を検討する。

回	授業内容及び方法	担当
1	災害や災害看護領域における現象や看護実践に関する文献検討	中信
2	災害看護において活用されている諸概念や理論に関する文献検討	中信
3	災害が被災者や救援者に及ぼす影響に関する文献検討	中信
4	災害や災害医療・災害看護における倫理的課題に関する文献検討	中信
5	被災者に対する看護実践に必要な看護の方法論の探究	中信
6	災害看護を行う看護者への支援方法の探究(1)	中信
7	災害看護を行う看護者への支援方法の探究(2)	中信
8	災害時における要配慮者の健康問題に関する文献検討(1)	渡邊
9	災害時における要配慮者の健康問題に関する文献検討(2)	渡邊
10	災害時における要配慮者に対するケアおよび介入方法に関する文献検討(1)	渡邊
11	災害時における要配慮者に対するケアおよび介入方法に関する文献検討(2)	渡邊
12	災害急性期における災害医療や看護に関する諸概念や方法論に関する文献レビューと現状分析	田村
13	災害復興期における災害医療や看護に関する諸概念や方法論に関する文献レビューと現状分析	田村
14	災害マネジメントと開発: 多機関・多職種連携の視点(1)	田村
15	災害マネジメントと開発: 多機関・多職種連携の視点(2)	田村

■ 準備学習

次回の授業内容や方法について、適切な文献を活用して事前に学習し、専門用語の意味などを理解しておく。また、担当教員と事前に打ち合わせを行い、学習内容・方法などを決定する。

■ 教材・テキスト

適宜紹介する。

■ 参考書

授業の中で紹介する(中信)
授業の中で紹介する(渡邊)
授業の中で紹介する(田村)

■ 成績評価の方法及び採点基準

次の①～③で総合的に評価を行う。

- ①授業への参加姿勢と貢献度(10%): 自発的な質問、発言などをして積極的に授業に参加したか。
- ②文献検討に基づいたプレゼンテーションの内容(40%): 文献検討を行い根拠に基づいた資料を作成し、自己の意見を明確にしてプレゼンテーションが行っているか。
- ③レポートの作成(50%): レポートが課題に対して適切な内容でまとめられているか。

■ 教員からのメッセージ

文献検討とディスカッションを深めていく中で、博士論文の研究課題や研究方法論を探求していきます。(中信)
災害時の混沌とした状況の中で、どのようにして対応していくことが看護専門職として必要なのか、これまでの災害を振り返りながら、探求していきます。(渡邊)
英語文献にもチャレンジします。(田村)

科目名	健康科学特論			選択必修	選択
担当教員	山本 憲志、森田 一三、長谷川喜代美				
科目区分	専門科目	単位数	2 単位	オフィス アワー	山 本:水12時-13時 森 田:月17時-18時 長谷川:月17時-18時
開講時期	1・2年次 前期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 1. 集団を対象とした健康増進のアプローチを理解する 2. 集団を対象とした多様なアセスメント法と介入法を理解する 3. 多職種による介入とそのマネジメントを理解する					
■ 授業の概要 地域や職域などの集団に介入して、そのウェルビーイングを高めることは、ヒューマンケアの目標のひとつである。このために、保健医療専門家は、集団を構成する多様な人たちの健康に関連する諸要因を、科学的・統計的に分析して、適切な介入方法を考案し、その実践をクリティカルに評価することが必要である。ここでは、国内外の知見を紹介し、全員で討議して理解を深める。					
回	授業内容及び方法				担当
1	形態機能測定の意義とその方法				山本
2	健康運動プログラムの作成①ーサルコペニア及びフレイルへの対応				山本
3	健康運動プログラムの作成②ーロコモティブ・シンドロームへの対応				山本
4	生活習慣病予防のための効果的な身体運動				山本
5	転倒・介護予防のための科学的な身体運動				山本
6	認知症予防のための効果的な身体運動				山本
7	健康寿命延伸のための科学的な身体運動				山本
8	地域などの集団のアセスメントおよび介入方法(1)				長谷川
9	地域などの集団のアセスメントおよび介入方法(2)				長谷川
10	地域などの集団における関係者間の連携・協働のありかた				長谷川
11	地域や職域などの集団における健康づくりのありかた(1)				森田
12	地域や職域などの集団における健康づくりのありかた(2)				森田
13	歯と口腔の健康づくり(1) 8020運動の始まりと取り組み				森田
14	歯と口腔の健康づくり(2) う蝕予防への取り組み				森田
15	歯と口腔の健康づくり(3) 歯周病対策への取り組み				森田
■ 準備学習 次回の授業範囲・課題などについて、事前に学習し専門用語の意味などを理解しておくこと。					
■ 教材・テキスト 特に指定しない。関係書籍・論文等を広く活用する。					
■ 参考書 ・山本憲志 <田口貞善監修「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」講談社サイエンティフィック> ・その他、適宜紹介します					
■ 成績評価の方法及び採点基準 授業へ積極的参加・討論(30%)、プレゼンテーション(35%)・レポート(35%)により、総合的に評価する。					
■ 教員からのメッセージ 健康の保持・増進には身体運動が欠かせません。医療従事者として、その正しい知識を身に付け多くの人々の健康の保持・増進に貢献できるようにしましょう!(山本)					

科目名	看護学演習			選択必修	必修
担当教員	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、原玲子、志賀くに子、 高田由美、山田典子、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、野口眞弓、 大西文子、東野督子、村瀬智子、森田一三、長谷川喜代美、田村由美、 中信利恵子、百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、 柳井圭子				
科目区分	演習	単位数	2 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	1年次 通年	時間数	60 時間		
■ 授業の目的 看護学演習は、合同研究ゼミナール、特別研究へとつなぐ授業科目と位置づける。国内外の文献検討やフィールドワーク、ディスカッションを行うことにより、研究テーマを絞り込み、明確にする。必要とされる理論と方法論、技法等を習得し、研究課題から研究方法を検討し、研究計画書を作成することを目的とする。					
■ 授業の概要 看護学とその隣接領域において、国内外の文献を検討材料とし文献レビューを行い、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域において課題解決が必要とされるテーマ、研究課題の明確化及び研究方法を検討する。さらに、課題解決に必要とされる理論と方法論、技法について実証的に探求する手法を習得する。					
回	授業内容及び方法				担当
	【授業の進め方】 各担当教員と相談し、関心のある研究テーマについて以下の通り演習を行う。 1～8 関心のある研究テーマに関する文献検討 9～14 研究テーマの明確化 15～20 研究テーマに関するフィールドワークとディスカッション 21～28 研究テーマに関する研究デザインの検討 29～30 プレゼンテーションとディスカッション				
■ 準備学習 授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 文献レビュー、プレゼンテーション、討議内容から総合的に評価する。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

研究指導教員名と指導の概要

・河口 てる子

看護援助モデルや教育支援モデルなど実践看護に求められる教育・支援及び慢性疾患をもつ人とその家族への援助について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・西片 久美子

糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる成人・高齢者とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・石崎 智子

療養生活を送る人々やその支援者のメンタルケアに焦点を当てたメンタルヘルスの在り方について、関心領域における課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・志賀加奈子

国内外における子どもへの予防接種の現状と課題を通して、予防接種を受ける子どもと家族の支援について探求する。

・原 玲子

質の高い看護サービスを提供するための看護管理上の課題および看護職のキャリア発達支援と人的資源活用上の課題を明らかにし、課題を解決するための研究手法を探求する。

・志賀 くに子

現代の思春期を取り巻く環境を理解し、思春期を中心とした健康教育のあり方について課題を明確にし、課題を解決する研究方法を探求する。

・高田 由美

療養生活を営む人々への看護実践における多様な課題に関する研究成果を基盤として、関心領域における研究課題および方法について探求する。

・山田 典子

様々な精神的課題について、バイオ・サイコ・ソーシャルおよび生態学的・社会システムといった多角的な視点で課題を焦点化し、それらを理解し解決するための研究手法を探求する。

・阿部 範子

親の育児困難感を低減するためには多くの要因が存在するため、本領域の研究遂行には焦点化が重要となる。個々の興味も含め、社会的意義や実施可能性を十分に検討しながら課題を明確にし研究方法を探求する。

・新田 純子

慢性疾患とともに生活する人々への看護実践における多様な課題に関する研究成果を基盤として、関心領域における研究課題の明確化と研究方法について検討する。

・鎌倉 やよい

周術期にある人、摂食嚥下障害を有する人に対する看護ケアプログラムの開発を中心課題とし、主にシングルケースデザインに基づき、研究課題の明確化と研究方法を指導する。

・山田 聡子

看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法、および臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する研究課題の明確化と研究方法を検討する。

・野口 眞弓

在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・大西 文子

てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の療養生活援助に関する研究課題の明確化と方法論の検討について教授する。

・東野 督子

医療関連や療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や口腔ケアや教育プログラムに関する研究課題の焦点化と方法論の検討について教授する。

・村瀬 智子

うつ病等の精神障がいをもつ人に対する看護援助モデルや看護理論構築に関する文献研究により研究課題を明確化すると共に、研究方法を探究する。

・森田 一三

量的研究を主とし、公衆衛生学、歯科学に関する研究指導を行う。

・長谷川喜代美

地域における看護活動、主として行政保健師の活動に関する研究課題の明確化と研究方法の検討を行う。

・田村 由美

看護実践と多職種連携協働(IPE&IPW)に焦点化し、IPE&IPWの概念、諸理論を理解する。Interprofessional Health Care Practiceの実践例、研究報告文献を紐解き、研究課題や方法論を吟味する。

・中信 利恵子

災害サイクルの各期における災害医療や看護活動における現象や課題を明らかにするために、国内外の文献研究を行い、研究課題の明確化とともに研究方法論を探究する。

・百田 武司

特論で学んだ、ベストプラクティスを提供し、脳卒中後遺症患者・介護家族のアウトカムを向上させるための理論や方法について理解を深め、実際に研究として展開する際の計画書を作成する。

・小松 浩子

がん看護ならびに緩和ケア領域における関心テーマについて文献研究を行い、研究課題の焦点化や方法論の検討を行う。

・高橋 清美

メンタルヘルス領域における摂食嚥下障害や摂食嚥下機能支援に関する国内外の文献レビューを行い、研究課題の明確化や研究方法を検討するとともに、摂食嚥下障害や摂食嚥下機能不全を解決するために必要とされる理論や方法論、技法について実証的に探究することを学修する。

・永松 美雪

リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因や予防モデルについての文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を検討する。

・姫野 稔子

在宅高齢者に対する看護介入の効果ならびに看護介入モデルに関連する文献研究を行い、自己の研究課題を明確にするとともに、適切な研究方法を吟味する。

・本田 多美枝

専門職実践の特徴を踏まえた人材開発の諸理論・方法論、実践から学ぶ方法、実践能力の開発・熟達化に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

・柳井 圭子

質の高い看護・人材開発を支えるための法政策に関する文献研究を行い、研究課題の焦点化と方法論の検討を行う。

科目名	合同研究ゼミナール			選択必修	必修
担当教員	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、原玲子、志賀くに子、 高田由美、山田典子、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、野口眞弓、 大西文子、東野督子、村瀬智子、森田一三、長谷川喜代美、田村由美、 中信利恵子、百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、 柳井圭子				
科目区分	演習	単位数	1 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	1年次 後期	時間数	30 時間		
■ 授業の目的 学生が学籍を置く大学での個人指導と、5大学の学生・教員が一堂に会して行う集合教育を組み合わせることにより、異なる専門性の観点から学生が現段階で考えている研究について、学生相互または教員とのディスカッションにより多角的に検討し、実現可能な研究に向けての方向性を見出せるよう教授する。					
■ 授業の概要 学生個々が現段階で考えている研究テーマあるいは、関心のあるテーマに関する内容、方法、意義等について学生が学籍を置く大学で個人指導を受け、その成果を集合して、5大学の学生・教員の前で発表することにより、学生が学籍を置く大学での個人指導がさらに深まり、博士論文作成に向けた糸口の発見や研究を遂行する過程での課題が抽出されるなど、今後の方向性が明確となる。また、対面による交流の場をもつことで、博士論文作成に引き続き取り組む上での研究者としての資質を培う。					
回	授業内容及び方法				担当
1~5	【授業の進め方】 6~13回は、5大学の中心地点にある日本赤十字看護大学(東京都)に集合して、2日間の日程で、共同開催する。その前後は、主研究指導教員からの指導を受ける。 研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する発表にむけた資料作成(各大学)				
6~13	研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する内容のプレゼンテーションとディスカッション (日本赤十字看護大学にて共同開催)				
14~15	研究テーマあるいは関心のあるテーマに関する内容の再検討(各大学)				
■ 準備学習 授業の内容を踏まえ、次回の授業までに資料を作成しておくこと。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 発表に向けた準備状況(30%)、プレゼンテーション(30%)、討議内容および討議への参加状況(40%)で総合的に評価する。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な取り組みを期待する。					

科目名	特別研究	選択必修	必修
担当教員	河口てる子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、原玲子、志賀くに子、高田由美、山田典子、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、山田聡子、野口眞弓、大西文子、東野督子、村瀬智子、森田一三、長谷川喜代美、田村由美、中信利恵子、百田武司、小松浩子、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子		
科目区分	特別研究	単位数	8 単位
開講時期	2～3年次 通年	時間数	240 時間
オフィスアワー 教員一覧参照			
■ 授業の目的 看護学の構築に向けて専門領域における課題について、フィールドワークから研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成から実施、研究論文作成までの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養い、博士学位論文作成に向けた指導を行う。			
■ 授業の概要 関心ある専門領域の文献レビュー、研究の前提となる理論枠組みあるいは基盤を明確化し、テーマの選択、研究の目的、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセス及び研究倫理に基づいた研究の取り組みについて指導する。			
回	授業内容及び方法		担当
	【授業の進め方】 1 専門領域における課題について、先行研究のレビュー、フィールドワークから、研究課題と研究方法の明確化をはかり、研究計画書を作成する。 2 研究計画書の審査と研究倫理審査を受け、研究の実施に向けた準備を整える。 3 研究計画書に沿ったデータ収集および分析を行う。 4 研究の進捗状況に応じ、文献的裏づけ等を行いながら、結果の解釈を深める。 5 博士学位論文を作成する。 【研究指導体制】 年度末に特別研究報告書を用いて、主指導教員・副指導教員4名からゼミ形式にて指導を行うが、その間には専門領域の主指導教員から指導を受ける。		
■ 準備学習 指導内容を踏まえ、次回の指導までに資料を作成しておくこと。			
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。			
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。			
■ 成績評価の方法及び採点基準 研究論文作成までのプロセスを研究報告書、研究計画書、作成中の博士学位論文から総合的に評価する。			
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な参加を期待する。			

研究指導教員名と指導の概要

- ・河口 てる子
看護援助モデルや教育支援モデルなど慢性疾患をもつ人とその家族への援助に関する研究指導を行う。
- ・西片 久美子
糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる高齢者とその家族の支援に関する研究指導を行う。
- ・石崎 智子
療養生活を送る人々およびその支援者のメンタルケアや精神障がい者支援の課題を改善・改革し、療養生活を営む人々がより良い生活を送ることができるような支援に関する研究指導を行う。
- ・志賀加奈子
予防接種を受ける子どもと家族の支援における援助方法や人材育成等に関する研究指導を行う。
- ・原 玲子
質の高い看護サービスを提供するための看護組織のあり方や看護職のキャリア開発、継続教育に関する研究指導を行う。
- ・志賀 くに子
思春期を中心とした健康教育のあり方や方法に関する研究指導を行う。
- ・高田 由美
在宅療養者や認知症高齢者の食生活を支える看護援助に関する研究指導を行う。
- ・山田 典子
精神的な健康課題を抱える対象を支援者する人への介入やコーディネーションに関する研究指導を行う。
- ・阿部 範子
親の育児困難感を低減するために、親サイド・子どもサイド、また子育てを支援する家族や育児環境の視点から、解決策探求に関わる研究を支援する。
- ・新田 純子
慢性疾患とともに生活する人々への看護実践における課題に焦点をあてた研究指導を行う。
- ・鎌倉 やよい
周術期にある人、摂食嚥下障害を有する人に対する看護ケアプログラムの開発を中心課題とし、主にシングルケースデザインに基づく介入研究を指導する。
- ・山田 聡子
看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法に関する課題や、臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。
- ・野口 眞弓
在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究指導を行う。
- ・大西 文子
てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の日常生活支援のための看護援助に関する研究指導を行う。

・東野 督子
医療関連や療養環境における感染を予防するための専門的な援助方法や口腔ケアや教育プログラムに関する研究指導を行う。

・村瀬 智子
うつ病等の精神障がいをもつ人に対する看護援助モデルの開発や看護理論構築に関する研究指導を行う。

・森田 一三
量的研究を主とし、公衆衛生学、歯科学に関する研究指導を行う。

・長谷川喜代美
地域における看護活動、主として行政保健師の活動に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。

・田村 由美
IPWを基盤にした災害への備えに関する研究、災害時の避難所看護実践モデル開発に関する研究指導を行う。

・中信 利恵子
災害サイクルの各期において被災者や救援者に及ぼす影響、質の高い看護活動、救援者自身の支援に関する研究指導を行う。

・百田 武司
脳卒中患者やその家族の健康問題の解決やQOLを高める看護援助方法の検証・開発に関する研究指導を行う。

・小松 浩子
がん看護ならびに緩和ケア領域における看護実践開発に関する研究指導を行う。

・高橋 清美
精神科領域における口腔ケアシステムに関する研究、地域におけるうつ病教育に関する研究指導を行う。

・永松 美雪
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因の分析や予防モデルの開発に焦点を当てた研究指導を行う。

・姫野 稔子
老年期にある対象者の倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行う。

・本田 多美枝
キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行う。

・柳井 圭子
医療安全・医療過誤訴訟を含む看護に関する法政策に関する課題、看護の倫理的問題に関する課題に焦点を当てた研究指導を行う。